

● 子ども主体の「21世紀型」の行事へ ●

## 「21世紀型」モデルの保育と行事

昭和の時代は、戦後の学校教育モデルを引きずりながら、受験戦争を勝ち抜いて成功を目指すような、集団画一型の保育が一般化しました。しかし、現在、平成の時代も終わり、これからは「昭和型」の一斉画一型の教育・保育モデルから、**主体的で、対話的で、深い学びが求められる「21世紀型」**の保育モデルが求められています。

これまで、子ども主体の保育への転換への大きなネックとなってきたのが、行事中心の保育だといわれてきました。その在り方を見直す重要な時期なのだと思います。21世紀型のキーワードは、昭和型が集団・一斉・画一だとすれば、主体性、協働性、対話、探求などだと思います。そうした点から行事を見直していく事がカギだと思います。ここで大切なのは、誰のための行事なのか、という視点です。**子どものための行事**です。そうであれば、「子どもにとって」という視点からの見直しが求められます。



参考～「園行事を子ども主体に変える！」編著 大豆生田啓友(玉川大学)～

みそらこども園でも、先生たちが準備をして、子ども達に教えていって…という行事から、日々の「遊び」の中で子どもたちと一緒に行事に向けての準備ができるようにしたり、子どもたちのアイデアをたくさん取り入れたり、その中で子ども同士の話し合いを持ち、自分の意見を言えるようになったり、お友達の話に耳を傾けたり、時にはぶつかり合いながらも、子どもたちと協力して行事を楽しめるように工夫してきました。最近の行事の取り組みについて紹介します。

### 当日を迎えるまで…



●うちわの製作(つき)●  
ストローを使って花火を表現。自分だけのオリジナルうちわです。今回は名前の漢字をうちわに入れることで文字に親しむ体験になりました。(数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚)



花火の完成!!

浴衣や提灯の折り紙を折りました



うちわのできあがり☆

●バックの準備(はと・ほし・つき)●

もらった景品を入れるバックの製作。バックの紐はみつあみが得意なお友達が編んでくれ、「祭」と書いたぬりえは6種類の中から自分で選び、色塗りをしました。(健康な心と体)



ヒモ作り



ぬりえ



バックが完成!

●盆踊り●

園庭に音楽が流れていたり、お集まりの後に、みんなで踊ったり…。先日のテキサス州からの留学生が来園した時には、一緒に楽しみ、伝統文化に触れることができました。(協同性)



●お金の準備●

おやつを買う100円玉の製作。お金を渡しておやつを買う社会の仕組みを行事を通して学びます。(社会生活との関わり)



好きな色に



丸くチョコチョコキ…



カラーポリを法被の形に…襟に黒テープ



ポスカで飾り付け☆法被の完成

屋台ごとに  
お店の飾りつけ



●屋台の準備(つき)●

おやつ屋台はつき組の担当! どのお店をしたいか(思考力の芽生え)、お店の飾り作りから、法被・はちまき作りも自分で。(豊かな感性と表現・協同性) 日々のごっこ遊びが実践につながり、自分が役に立つ喜びを感じることができました。(社会生活との関わり)

# ふれあい盆踊り(当日)

## ●盆踊り●

盆踊りは未満児、以上児に分かれてしました。未満児さんの時には、つき組の代表がお手本にステージで踊ってくれました。



以上児さんは、輪になって前に進みながら踊りましたよ。つき組さんは自慢のうちわを手に持ち踊りました。



## ●ゲーム●

ひもくじ・まとあて・わなげ・ボーリングなど、ゲームを楽しみました。はと・ほし・つき組は、自分で作ったバックに景品を入れて持ち帰りました。



## ●おやつ屋台●

ホールに響く「いらっしゃいませ～」の声。お客さんがなかなか来ないお店の店員さんは考えて、「おふラスクいっぱい入ってるよ!」「ツムツムのクッキーかわいいよ!」とお客さんに上手に声をかけていました。交換した100円を数えて売り上げを確認する姿も見られました。



私の法被 どうですか？

アメリカドックにする？ おいしいよ！

いらっしゃいませ～ どれにしますか？

いくら売れたかな～

おふラスクどう？ たくさん入ってるよ～

園だよりも書きましたが、「発表会」という名前を変えようと現在考えています。それは、運動会を“みそら Niceday”と変えたように、「発表会」のイメージを変えていきたいという思いがあります。行事を子ども中心にと考えて行く中で、「運動会」と「発表会」がもっと子どもたちの普段の姿が繋がっていくように、子どもたちのアイデアが沢山盛り込まれた1日になるように、子どもたちが「この日が待ち遠しかった！ 楽しみだ！」と思ってくれるような行事にしていきたいと思っています。今回のふれあい盆踊りを通して、当日に向けての準備の子どもたちが加わってくれることで、待ち遠しく思う姿や、当日の子どものいきいきとした表情に繋がったと感じています。今年の発表会もさらに輝く子どもたちの姿を楽しみにしていきましょう。

## 発表会に向けて...

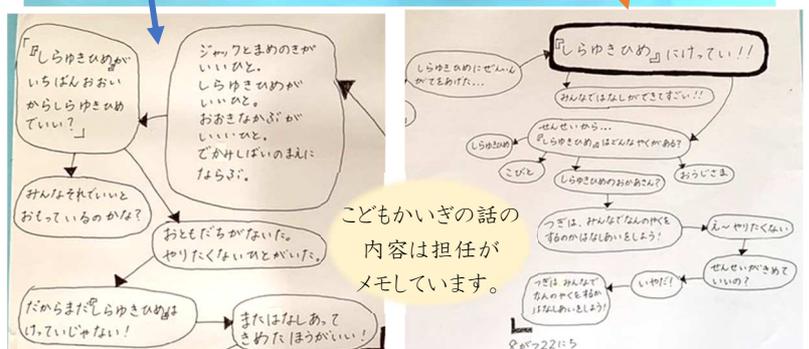
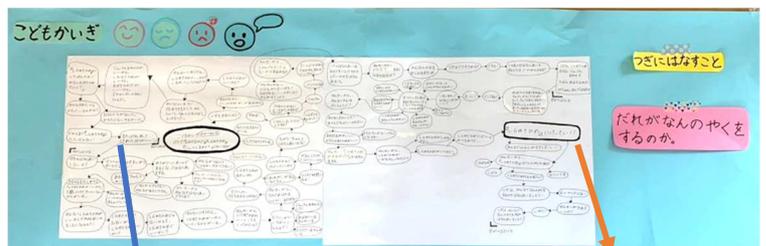
園では1年を通して、園庭や室内で音楽を流しています。遊びに夢中でバックミュージックになっている子ども多くいますが、リズムとったり、保育教諭やお友達と一緒に踊ったり、流行りの曲や季節のうたを楽しむ様子が見られます。未満児クラスは、お盆前から、少しずつ発表会の候補の曲が流れ始め、保育教諭の踊りをマネする様子が見られています。以上児クラスは、候補の曲を聞いたり、どんな振りがあるのか、衣装はどんな感じなのか保育教諭の話や、自分がどの曲を踊りたいのか、話し合いをしました。今週から、グループに分かれてのおけいこが始まっています。つき組さんは、Instagramにも載っていますが、“劇を何にするか”の**こどもかいぎ**が開かれています。29人で話し合う事の難しさ、自分の意見とお友達の意見と食い違った時にどうすればいいのか、葛藤しつつも話し合いが進められています。今後も Instagram やおたより等でお知らせしていきますので、今後の行方をご注目ください。



こどもかいぎの様子  
子ども達で話を進め、担任は様子を見守ります



「こどもかいぎ」は、絵本や映画にもなっています。この絵本は、つき組もこどもかいぎを開く前にみんなで読んで参考になっています。



こどもかいぎの話の内容は担任がメモしています。